

母性看護学実習Ⅰ	3年・前期	1単位	准教授 西川明美 他
科目カテゴリー	看護提供のあり方	科目ナンバリング	33210803

1. 授業のねらい・概要

妊産婦とその家族を対象に、個々の健康ニーズを把握し、健康の保持増進、健康問題や健康上問題を解決する援助方法を学び、母性看護の基礎的能力を養う。

2. 学修の到達目標

1. 妊娠期、分娩期の看護と看護技術について理解できる。
2. 妊娠期の母子の健康状態を評価することができる。
3. 妊産婦に必要な看護について理解を深めることができる。
4. 医療チームの一員としての看護職者の役割を理解し、専門職としての態度を養うことができる。
5. 妊産婦が生活する環境について理解することができる。

3. 授業の進め方

実習要項（修正版の差し込み文書）およびオリエンテーション資料参照

4. 授業計画（実習）

1. 実習期間：令和2年6月～8月の間で実習を行う。＊夏季休暇中の地区踏査を含むものとする
2. 実習施設：こすもレディースクリニック
3. 実習内容：実習要項参照

5. 成績評価の方法・基準

3分の2以上の出席を条件とし、実習状況・実習記録を合わせて80%、知識確認試験20%で、総合的に評価する。ただし、実習と知識確認試験は、それぞれ60%以上得点すること。

6. テキスト・参考文献

テキスト：森 恵美他（2019）：系統看護学講座 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院
横尾 京子他（2019）：ナースンググラフィカ 母性看護学③ 母性看護技術 メディカ出版
太田 操（2019）：ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第3版 医歯薬出版
参考文献：講義で配布した資料、その他の参考文献は実習中に随時紹介する。

7. 準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な内容

事前学習として、妊娠期の母体の変化と胎児の発育（異常およびケア・妊婦健康診査含む）に関する課題をポケットサイズのノートにまとめ学習しておく。実習開始前までに、必要な看護技術を復習して実習に臨むこと。

8. 受講上の留意事項

先修条件：母性看護学概論、母性看護学方法論Ⅰ・Ⅱを履修していること。

9. 課題に対するフィードバックの方法

提出された事前学習課題は、教員が内容を確認して返却する。内容の不備なものは再提出を求める。ただし、実習記録物は返却しない。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

必修科目であり、修得できない場合進級不可となる。

11. 該当する本実習は、以下の実務経験を活かして実施

医療機関における助産師としての実務経験を活かして、実習の指導を行う。